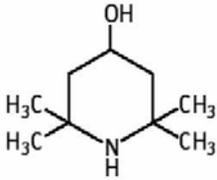


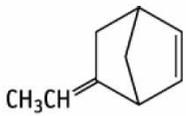
既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	5-776	CAS No.	2403-88-5
審議結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当 生態影響 収集された情報からは第三種監視化学物質相当に該当するとは判断されない。		
名称 構造式等	名称：2, 2, 6, 6-テトラメチル-4-ヒドロキシピペリジン 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	陰性 純度 99.8%. 溶媒 (注射用水-溶解). TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. (本試験 I、II) -S9mix 群：5000 μg/plate (TA98, TA100, TA1537 : 2500 μg/plate 以上で菌の生育阻害 TA1535, WP2 uvrA : 最高用量で菌の生育阻害) +S9mix 群：5000 μg/plate (TA100, TA1537 : 2500 μg/plate 以上で菌の生育阻害) TA98, TA1535, WP2 uvrA : 最高用量で菌の生育阻害)		
染色体 異常	陽性 D20=2.3mg/mL (-S9mix 群：構造異常). -S9mix 群で構造異常の誘発. 純度 99.8%. 溶媒 (局方生理食塩液-溶解). CHL/IU. 5.0mg/mL まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施. -S9mix 群：0.8mg/mL +S9mix 群：0.8mg/mL 24 時間処理群：0.8mg/mL (50%以上細胞分裂指数抑制濃度) 48 時間処理群：0.8mg/mL (50%以上細胞分裂指数抑制濃度) (追加試験 I, II, III) -S9mix 群：1.2mg/mL -S9mix 群：2.0mg/mL (50%以上細胞分裂指数抑制濃度) -S9mix 群：2.0mg/mL		
反復経口投 与毒性・生 殖発生毒性 併合試験 (ReproTox)	投与方法	強制経口投与 溶媒：注射用蒸留水	
	純度	99.8%	
	用量	3 投与群 (60, 200, 600mg/kg).	
	死亡	60♀(1/12), 600♂(3/12), 600♀(1/12)	
	NOEL	反復投与毒性：60 mg/kg/day 未満 生殖発生毒性：200 mg/kg/day	
推定根拠	反復投与毒性： 一般状態 (眼瞼下垂・散瞳：60 以上♀♂) 生殖発生毒性： 性周期延長：600♀ 生後 0 日児体重↓：600♀♂		

	他の毒性	<p>体重↓：200 以上♀♂ 摂餌量↑：600♀♂ 一般状態（自発運動の低下：600♂♀） 相対重量（肝↑：600♀，副腎↑：600♀♂） （死亡例） 組織学的所見 （腎一尿細管上皮空胞変性・壊死・好塩基性化：600♂♀、 腎一硝子円柱：600♂、脾臓・唾液腺一空胞変性：600♂♀、 骨髓一造血低下：600♀♂ 胃一潰瘍：600♂）</p>
	回復性	実施せず
人健康影響判定根拠	Ames 試験陰性、染色体異常試験は軽微な陽性であるも、NOEL60mg/kg/day 未満であり、神経行動毒性がみとめられ、腎臓及び脾臓に重篤な組織学的所見がみとめられることから第二種監視化学物質相当。	
藻類生長阻害	<p>生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法：OECD-TG201 培養方式：振とう培養 試験濃度：設定濃度 42、76、140、250、440、800 mg/L 実測濃度 42、74、140、240、440、730 mg/L（幾何平均値） 助剤：なし 0-72hErC50（設定値に基づく）=120 mg/L 0-72hNOECr（設定値に基づく）=76 mg/L</p>	
ミジンコ急性遊泳阻害	<p>生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：OECD-TG202 試験方式：止水式 試験濃度：設定濃度 11、19、34、62、110、200 mg/L 実測濃度 11、19、34、62、110、200 mg/L（幾何平均値） 助剤：なし 48hEiC50（設定値に基づく）=100 mg/L</p>	
ミジンコ繁殖阻害	<p>生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：OECD-TG211 試験方式：半止水式、週に3回換水 試験濃度：設定濃度 3.7、6.7、12、22、39、70 mg/L 実測濃度 3.7、6.3、11、20、37、67 mg/L（時間加重平均値） 助剤：なし 21dNOEC（設定値に基づく）=3.7 mg/L</p>	
魚類急性毒性	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 物質濃度：設定濃度 9.5、17、31、56、100、100 mg/L* 実測濃度 9.3、16、32、56、100、100 mg/L*（幾何平均値） *：pH 調整を行ったもの 助剤：なし 96hLC50（設定値に基づく）>100 mg/L（pH 調整した場合>100 mg/L） また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 pH 調整した 100 mg/L 群：異常遊泳（72hr 1/10）</p>	

他の毒性 情報	<p>[SIAR (OECD/HPV プログラム) より引用]</p> <p>藻類に対する毒性として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <i>Pseudokirchneriella subspicatus</i> 96hEC50=158mg/L、72hNOEC=10 mg/L <p>魚類に対する毒性として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <i>Danio rerio</i> 96hLC50>1000 mg/L
生態影響 判定根拠	<p>3種の急性毒性試験から得られる最も低い毒性値が 48hEiC50=100mg/L (ミジンコ急性遊泳阻害試験) であり、かつミジンコ繁殖阻害試験において 21dNOEC=3.7mg/L であることから、第三種監視化学物質相当でない。</p>
備考	

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	4-602	CAS No.	16219-75-3
審議結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当 生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：5-エチリデン-2-ノルボルネン 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	陰性 純度 99.4%. 溶媒 (DMSO-溶解). TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. 5000 μg/plate まで実施した用量設定試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施。 (本試験 I、II) -S9mix 群：125 μg/plate (TA1535, TA1537：62.5 μg/plate で菌の生育阻害 250 μg/plate (TA98, TA100, WP2 uvrA： 125 μg/plate で菌の生育阻害) +S9mix 群：250 μg/plate (TA100, TA1535：125 μg/plate で菌の生育阻害 TA98：最高用量で菌の生育阻害) 500 μg/plate (TA1537：250 μg/plate で菌の生育阻害 WP2 uvrA：最高用量で菌の生育阻害)		
染色体 異常	陰性 純度 99.4%. 溶媒 (アセトン-溶解). CHL/IU. 1.2mg/mL(10mM)まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施。 -S9mix 群：0.1mg/mL (50%以上細胞増殖抑制濃度) +S9mix 群：0.2mg/mL (細胞毒性のため 0.1mg/mL まで観察) 24 時間処理群：0.2mg/mL (細胞毒性のため 0.05mg/mL まで観察) 48 時間処理群：0.2mg/mL (細胞毒性のため 0.05mg/mL まで観察)		
28 日間反 復投与	投与方法	強制経口投与 溶媒：コーン油	
	純度	99.4%	
	用量	3 投与群 (4, 20, 100mg/kg/day).	
	死亡	100♂ (2/14)	
	NOEL	4 mg/kg/day 未満	
	推定根拠	病理組織学的所見 (腎-近位尿細管上皮の硝子滴：4 以上♂)	
	他の毒性	体重↓：100♀♂ 尿タンパク↑：100♀♂ 血液学的検査 (WBC↑：100♂) 血液生化学的検査 (Gluc↓：100♀、) 相対重量 (腎↑：100♀♂、胸腺↑：100♀) 病理組織学的検査 (腎-近位尿細管上皮の好酸性小体：20以上♂ 甲状腺-濾胞細胞の肥大・コロイドの減少：100♂♀)	
回復性	腎-近位尿細管上皮の硝子滴・好酸性小体		
簡易生殖	投与方法	強制経口投与 溶媒：コーン油	
	純度	99.5%	
	用量	3 投与群(4, 20, 100mg/kg/day)	

	死亡	100♂(2/12)
	NOEL	反復投与：20mg/kg/day 生殖発生毒性：20mg/kg/day
	推定根拠	反復投与： 体重↓(100♂♀) 摂餌量↓(100♂♀) 相対重量(肝↑：100♂) 病理組織学的所見(肝一小葉中心性肝細胞肥大・肝細胞空胞化：100♂) 生殖発生毒性： 生後4日生存児数↓・妊娠期間延長・総出産児数↓・着床率↓・分娩率↓： 100
	他の毒性	－
	回復性	実施せず
人健康影響判定根拠	Ames 試験及び染色体異常試験は陰性であるが、NOEL4mg/kg/day 未満であることから第二種監視化学物質相当	
藻類生長阻害	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法： OECD-TG201 培養方式： 振とう培養 試験濃度： 設定濃度 4.0、6.8、12、20、33 mg/L 実測濃度 0.85、1.4、2.5、4.1、6.8 mg/L (初期実測値) 助剤： HCO-40 100mg/L 0-72hErC50 (実測値に基づく) =4.9 mg/L 0-72hNOECr (実測値に基づく) =0.78 mg/L	
ミジンコ急性遊泳阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG202 試験方式： 止水式 試験濃度： 設定濃度 0.48、0.86、1.5、2.8、5.0 mg/L 実測濃度 0.41、0.76、1.3、2.4、4.2 mg/L (時間加重平均値) 助剤： HCO-40 25 mg/L 48hErC50 (設定値に基づく) =3.3 mg/L	
ミジンコ繁殖阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG211 試験方式： 半止水式、24 時間毎に換水 試験濃度： 設定濃度 0.38、0.65、1.1、1.9、3.2 mg/L 実測濃度 0.31、0.52、0.89、1.5、2.6 mg/L (時間加重平均値) 助剤： HCO-40 16mg/L 21dNOEC (実測値に基づく) =1.5 mg/L	
魚類急性毒性	生物種： ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法： OECD-TG203 試験方式： 半止水式、8 時間目と 16 時間目に換水 物質濃度： 設定濃度 5.2、7.3、10、14、20 mg/L 実測濃度 4.4、6.2、8.5、12、16 mg/L (時間加重平均値) 助剤： HCO-40 100 mg/L 96hLC50 (実測値に基づく) =7.0 mg/L また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 4.4 mg/L 群： 異常行動 (24hr、48hr、72hr、96hr) 6.2 mg/L 群： 異常行動 (24hr、48hr、72hr、96hr)	

他の毒性 情報	<p>[SIAR (OECD/HPV プログラム) より引用]</p> <p>藻類に対する毒性として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 0-96hEbC50=3.68 mg/L <p>ミジンコに対する毒性として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <i>Daphnia magna</i> 48hEC50=7.3 mg/L <p>魚類に対する毒性として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <i>Danio rerio</i> 96hLC50 =7.6 mg/L
生態影響 判定根拠	魚類急性毒性試験において 96hLC50=7.0mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。
備考	

	推定根拠	<p>反復投与 相対重量(腎↑：67以上♂，600♀) 病理組織学的所見(腎-近位尿管上皮硝子滴沈着・好酸性小体：67以上♂)</p> <p>生殖発生毒性 総出産児数↓：600、生児分娩率↓：600、生後0日及び4日生存児数↓：600、 黄体数↓・着床数↓：600</p>
	他の毒性	<p>反復投与毒性 体重↓(200以上♀♂) 血液学的検査(RBC↓・Hb↓・Hct↓：600♂) 絶対重量(肝↑：600♀、腎↑：200以上♂・600♀) 相対重量(肝↑：200以上♀・600♂) 病理組織学的所見(肝-小葉中心性肝細胞肥大：600♀♂、 腎臓-尿管上皮の再生：200以上♂)</p>
	回復性	実施せず
人健康影響判定根拠	<p>「Ames 試験陰性、染色体異常試験は軽微な陽性であるも、NOEL67mg/kg/day 未満であることから第二種監視化学物質」という事務局案であったが、現時点での毒性情報だけでは第二種監視化学物質に該当するかどうか判断できないため、追加の毒性情報の収集を行い、再度審議することとされた。</p>	
藻類生長阻害	<p>生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法： OECD-TG201 培養方式： 振とう培養（密閉系） 試験濃度： 設定濃度 0.80、1.6、3.2、6.4、10、16、24 mg/L 実測濃度 0.31、0.65、1.3、2.7、4.2、7.1、11 mg/L（幾何平均値） 助剤： DMF 及び HCO-30 (25:8) 99 mg/L 0-72hErC50（実測値に基づく）=7.0 mg/L 0-72hNOECr（実測値に基づく）=0.65 mg/L</p>	
ミジンコ急性遊泳阻害	<p>生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG202 試験方式： 半止水式、24 時間毎に換水 試験濃度： 設定濃度 0.50、0.75、1.1、1.7、2.5 mg/L 実測濃度 0.38、0.54、0.75、1.2、1.6 mg/L（幾何平均値） 助剤： 2-メトキシエタノール及び HCO-30 (1:1) 75 mg/L 48hErC50（実測値に基づく）=0.73 mg/L</p>	
ミジンコ繁殖阻害	<p>生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG211 試験方式： 半止水式、週に 3 回(16 日まで)、24 時間毎(16 日以降)換水 試験濃度： 設定濃度 0.020、0.055、0.15、0.40、1.0 mg/L 実測濃度 0.018、0.048、0.12、0.35、0.85 mg/L（時間加重平均値） 助剤： DMF 及び HCO-60 (1:1) 30 mg/L 21dNOEC（実測値に基づく）=0.12 mg/L</p>	
魚類急性毒性	<p>生物種： ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法： OECD-TG203 試験方式： 半止水式、24 時間毎に換水 物質濃度： 設定濃度 2.0、4.0、8.0、16、32 mg/L 実測濃度 1.6、3.1、6.4、13、28 mg/L（幾何平均値） 助剤： メチルセロソルブ及び HCO-30 (1:2) 96 mg/L（最高濃度） 96hLC50（実測値に基づく）=4.4 mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 1.6 mg/L 群： 異常遊泳（72hr 2/10、96hr 1/9） 3.1 mg/L 群： 異常遊泳（72hr 5/10、96hr 6/10）</p>	

生態影響 判定根拠	ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEiC50=0.73mg/L かつ魚類急性毒性試験において 96hLC50=4.4mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。
備考	

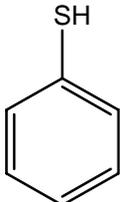
既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-1978	CAS No.	88-44-8
審議結果	<p>人健康影響 収集された情報からは第二種監視化学物質相当に該当するとは判断されない。</p> <p>生態影響 収集された情報からは第三種監視化学物質相当に該当するとは判断されない。</p>		
名称 構造式等	<p>名称：2-アミノ-5-メチルベンゼンスルホン酸</p> <div style="text-align: center;"> </div>		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	<p>陰性</p> <p>純度 98%以上. 溶媒 (DMSO-溶解). プレート法. TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. (本試験 I, II)</p> <p>-S9mix 群 : 5000 μg/plate +S9mix 群 : 5000 μg/plate</p>		
染色体 異常	<p>陰性</p> <p>純度 98%以上. 溶媒 (0.5%CMCNa 水溶液-懸濁). CHL/IU. 1.9mg/mL(10mM)まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施.</p> <p>-S9mix 群 : 1.9 mg/mL (細胞毒性のため 0.95mg/mL まで観察) +S9mix 群 : 1.9 mg/mL (細胞毒性のため 0.95mg/mL まで観察) 24 時間処理群 : 1.9 mg/mL (細胞毒性のため 0.95mg/mL まで観察) 48 時間処理群 : 1.9 mg/mL (細胞毒性のため 0.95mg/mL まで観察) (確認試験) 中性へ pH 調整後 +S9mix 群 : 1.9 mg/mL</p> <p>※+S9mix 群で構造異常の誘発したが、pH 調整を行って中性条件下で処理をすると染色体異常を誘発しない</p>		
28 日間 反復投与	投与方法	強制経口投与 溶媒：ゴマ油	
	純度	99.96 %	
	用量	3 投与群 (100, 300, 1000 mg/kg/day)	
	死亡	-	
	NOEL	300 mg/kg/day	
	推定根拠	<p>尿検査(尿比重↑・尿 pH↓ : 1000♂)</p> <p>血液生化学的検査(Cho↓ : 1000♂、GPT↑・Glu↓ : 1000♀)</p> <p>剖検所見(盲腸-拡張 : 1000♀♂)</p>	
	他の毒性	-	
回復性	問題なし		
簡易生殖	投与方法	強制経口投与 溶媒：ゴマ油	
	純度	99.3%	
	用量	3 投与群 (100, 300, 1000 mg/kg/day)	
	死亡	-	

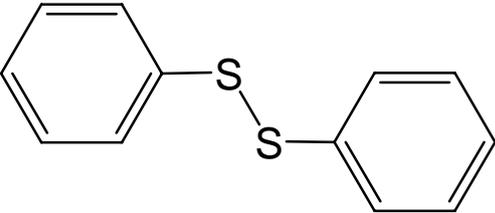
	NOEL	反復投与毒性・生殖発生毒性 1000mg/kg/day			
	推定根拠	特に毒性学的影響は認められていない			
	他の毒性	—			
	回復性	実施せず			
他の毒性	小核試験 陰性 純度 99.8%. C57BL/6JfCD-1/Alpk マウス. 1群雌雄各 5匹. 2投与群 (3125, 5000mg/kg). 骨髓細胞				
人健康影響判定根拠	Ames 試験は陰性、染色体異常試験は陰性、NOEL300mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当でない				
藻類生長阻害	生物種: <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法: OECD-TG201 培養方式: 振とう培養 試験濃度: 設定濃度 10 mg/L 実測濃度 8.7 mg/L (幾何平均値) 助剤: DMSO 100 µ L/L 0-72hEbC50、24-72ErC50 (設定値に基づく) > 10 mg/L 0-72hNOECr、24-72NOECb (設定値に基づく) =10 mg/L (試験上限濃度では影響が認められなかった)				
ミジンコ急性遊泳阻害	生物種: オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法: OECD-TG202 試験方式: 止水式 試験濃度: 設定濃度 10 mg/L 実測濃度 9.9 mg/L (幾何平均値) 助剤: DMSO 100 mg/L 48hEiC50 (設定値に基づく) > 10 mg/L				
ミジンコ繁殖阻害	生物種: オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法: OECD-TG211 試験方式: 半止水式、週に 3 回換水 試験濃度: 設定濃度 1.0、3.2、10 mg/L 実測濃度 1.0、3.2、10 mg/L (時間加重平均値) 助剤: DMSO 100mg/L 21dNOEC (設定値に基づく) =3.2 mg/L				
魚類急性毒性	生物種: ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法: OECD-TG203 試験方式: 半止水式、48 時間後に換水 物質濃度: 設定濃度 10 mg/L 実測濃度 10 mg/L (時間加重平均値) 助剤: DMSO 100 mg/L 96hLC50 (設定値に基づく) > 10 mg/L				
生態影響判定根拠	3種の急性毒性試験において、試験上限濃度で影響が認められず、かつミジンコ繁殖阻害試験において 21dNOEC=3.2mg/L であることから、第三種監視化学物質相当でない。				
環境調査 ※ 1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出限界
	水質	S55	0/24	—	10~200(µ g/l)
	底質	S55	0/24	—	0.5~11(µ g/g-dry)
	魚類	—	—	—	—

備考	※ 1 S56 版「化学物質と環境」（環境省環境保健部安全課）
----	---------------------------------

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-1092	CAS No.	108-98-5
審議結果	総合判定 人健康影響 第二種監視化学物質相当 生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名 称：ベンゼンチオール <div style="text-align: center;">  </div>		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
人健康影 響判定根 拠	変化物が第二種監視化学物質であることから、総合判定として第二種監視化学物質相当。		
生態影響 判定根拠	変化物が第三種監視化学物質であることから、総合判定として第三種監視化学物質相当。		
備考	変化物あり		

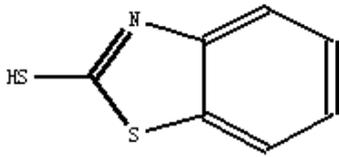
既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-1124 (3-1092 ベンゼンチオールの変 化物)	CAS No.	882-33-7
審議結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当 生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名 称：ジフェニルジスルフィド 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	陰性 純度 99.8%. 溶媒 (DMSO-溶解). TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA/pKM101. 5000 μ g/plate まで実施した用量設定試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施。 (本試験 I) -S9mix 群：9.77 μ g/plate (TA100,TA1535：4.88 μ g/plate 以上で菌の生育阻害) 19.5 μ g/plate (TA98,TA1537：9.77 μ g/plate 以上で菌の生育阻害) 2500 μ g/plate (WP2 uvrA：625 μ g/plate 以上で菌の生育阻害) +S9mix 群：78.1 μ g/plate (TA100,TA1535：最高用量で菌の生育阻害) 156 μ g/plate (TA98,TA1537：78.1 μ g/plate 以上で菌の生育阻害) 5000 μ g/plate (WP2 uvrA：2500 μ g/plate 以上で菌の生育阻害) (本試験 II) -S9mix 群：9.77 μ g/plate (TA100,TA1535：4.88 μ g/plate 以上で菌の生育阻害) 19.5 μ g/plate (TA98,TA1537：9.77 μ g/plate 以上で菌の生育阻害) 2500 μ g/plate (WP2 uvrA：625 μ g/plate 以上で菌の生育阻害) +S9mix 群：78.1 μ g/plate (TA100,TA1535：最高用量で菌の生育阻害) 156 μ g/plate (TA98,TA1537：78.1 μ g/plate 以上で菌の生育阻害) 5000 μ g/plate (WP2 uvrA：2500 μ g/plate 以上で菌の生育阻害)		
染色体 異常	陰性 純度 99.7%以上. 溶媒 (DMSO-溶解). 細胞名：CHL/IU ±S9mix 群については 0.200mg/mL(10mM)、24 時間処理群については 0.050mg/mL まで実施した細胞増殖抑制試験結果を参考に以下の濃度まで実施。 -S9mix 群：0.025mg/ mL (50%以上細胞増殖抑制濃度) +S9mix 群：0.030mg/ mL (50%以上細胞増殖抑制濃度) 24 時間処理群：0.025mg/ mL (50%以上細胞増殖抑制濃度)		
反復経口投 与毒性・生 殖発生毒性 併合試験 (ReproTox)	投与方法	強制経口投与 溶媒：0.5%トランス水溶液	
	純度	99.8%	
	用量	3 投与群 (1, 6, 30 mg/kg/day)	
	死亡	急性毒性 2000：♀3/6 予備試験 1000：♂3/3♀3/3、300：♂3/3♀3/3	
	NOEL	反復投与：<1 mg/kg/ day 生殖発生毒性：30mg/kg/day	

	<p>推定根拠 反復投与毒性： 組織学的検査(腎一好塩基性近位尿細管・近位尿細管上皮硝子滴：1以上♂、) 生殖発生毒性： 特に毒性学的影響は認められていない。</p> <p>他の毒性 一般状態(分娩困難：30♀) 血液形態学的検査(RBC↓：30♂♀、HGB↓・RET↑：30♂) 血液生化学的検査(GLU↓：30♂、CHO↑：30♂♀、TP↑・ALB↑：30♀) 絶対重量(肝↑：30♂♀、脾↑：30♀、腎↑：6以上♂) 相対重量(肝↑：30♂♀、脾↑：30♀、腎↑：6以上♂・30♀) 組織学的検査(肝一小葉中心性肝細胞肥大：6以上♂・30♀、 脾一赤血球系髓外造血：30♀、脾一ヘモグロビン沈着：30♂、 骨髄一赤血球系造血細胞増加：6以上♀ 腎一尿細管上皮リポフスチン沈着：6以上♀ 甲状腺一ろ胞上皮細胞肥大：30♂)</p> <p>回復性 RBC↓・HGB↓・RET↑、CHO↑、脾↑・腎↑、腎一好塩基性近位尿細管</p>
人健康影響判定根拠	Ames 試験及び染色体異常試験は陰性であるが、NOEL 1 mg/kg/day 未満であることから第二種監視化学物質相当
藻類生長阻害	<p>生物種：<i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法：OECD-TG201 培養方式：振とう培養 試験濃度：設定濃度 0.050、0.071、0.10、0.14、0.20 mg/L 実測濃度 0.040、0.062、0.080、0.11、0.16 mg/L (0hr) -※、-※、-※、-※、0.0022 mg/L (72hr) ※ 検出限界 (0.00006 mg/L) 未満 助剤：DMF 100 μ L/L 0-72hErC50 (実測値に基づく) >0.019 mg/L 0-72hNOECr (実測値に基づく) =0.019 mg/L (試験上限濃度では影響が認められなかった。)</p>
ミジンコ急性遊泳阻害	<p>生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：OECD-TG202 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 試験濃度：設定濃度 0.0020、0.0036、0.0064、0.011、0.020 mg/L 実測濃度 0.0013、0.0024、0.0044、0.0074、0.014 mg/L (幾何平均値) 助剤：DMF 100 μ L/L 48hEiC50 (実測値に基づく) =0.0085 mg/L</p>
ミジンコ繁殖阻害	<p>生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：OECD-TG211 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 試験濃度：設定濃度 0.010、0.021、0.045、0.095、0.20 mg/L 実測濃度 0.0034、0.0079、0.019、0.044、0.097 mg/L (時間加重平均値) 助剤：DMF 100 μ L/L 21dNOEC (実測値に基づく) =0.0079 mg/L</p>

魚類急性毒性	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 物質濃度：設定濃度 0.020、0.036、0.064、0.11、0.20 mg/L 実測濃度 0.012、0.023、0.042、0.080、0.15 mg/L（幾何平均値） 助剤：DMF 100 μ L/L 96hLC50（実測値に基づく）=0.058 mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 0.042 mg/L 群：異常遊泳（動作の緩慢）（96hr 1/10） 表層遊泳（96hr 1/10）</p>				
生態影響判定根拠	<p>ミジニコ急性遊泳阻害試験において 48hEiC50=0.0085mg/L、ミジニコ繁殖阻害試験において 21dNOEC=0.0079mg/L 及び魚類急性毒性試験において 96hLC50=0.058mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。</p>				
環境調査※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出限界
	水質	S58	0/30	—	0.1(μ g/L)
	底質	S58	0/30	—	0.005~0.024(μ g/g-dry)
	魚類	—	—	—	—
備考	<p>※1 S59 版「化学物質と環境」（環境省環境保健部安全課）</p>				

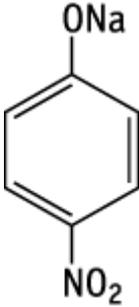
既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	5-242 5-243	CAS No.	149-30-4
審議結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当 生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：2-メルカプトベンゾチアゾール 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
その他の 毒性情報	[National Toxicology Program Technical Report Series No.332(1988)より引用] 変異原性 Ames 試験 (TA1535, TA1537, TA100, TA98) :陰性 純度記載なし - (With and without metabolic activation) 染色体異常試験 (CHO cells) :陽性 純度記載なし + (With metabolic activation) - (Without metabolic activation) マスリンフォーム TK 試験 :陽性 純度記載なし + (With metabolic activation) - (Without metabolic activation) 反復投与毒性 B6C3F ₁ マウス (188, 375, 750, 1500, mg/kg/day(強制経口投与)) 13 週間 純度 96% 1500(死亡 : ♂♀[半数以上]) 750 以上(流涙・流涎・間代性痙攣) 375 以上(嗜眠) F344/N ラット (188, 375, 750, 1500 mg/kg(強制経口投与)) 13 週間 純度 96% 750 以上♀・1500♂(体重↓) 188 以上♀・1500♂(肝腫大) 発がん性 B6C3F ₁ マウス (375, 750 mg/kg/day (強制経口投与)) 2 年間 純度 96%以上 750♀(生存率↓) 腫瘍性病変(肝-肝細胞腺腫/癌腫) F344/N ラット (♂ : 375, 750 mg/kg ♀ : 188, 375 mg/kg(強制経口投与)) 2 年間 純度 96%以上 375 以上♂(生存率↓) 非腫瘍性病変(腎症 : ♂、前胃-潰瘍/炎症 : ♂♀、前胃-上皮過形成・過角化 : ♂) 腫瘍性病変(血液-単核球性白血病:♂、膵臓-腺房細胞腺腫 : ♂、下垂体-腺腫 : ♀、包皮腺-腺腫/癌腫 : ♂、副腎-褐色細胞腫 : ♂♀) ※NTP では 2-メルカプトベンゾチアゾールの発がん性については以下のとおり評価している。 F344/N rat♂: some evidence of carcinogenic activity (血液-単核球性白血病, 膵臓-腺房細胞腺腫, 副腎-褐色細胞腫, 包皮腺-腺腫/癌腫) F344/N rat♀: some evidence of carcinogenic activity(副腎-褐色細胞腫, 下垂体-腺腫) B6C3F ₁ mice♂:no evidence of carcinogenic activity B6C3F ₁ mice♀:equivocal evidence of carcinogenic activity(肝-肝細胞腺腫/癌腫)		

	[小川ら：衛生試験所報告 107, 44(1989)より引用] 反復投与毒性 ddY マウス (30, 120, 480, 1920ppm(混餌投与)) 20 月間 480 以上(腎間質-細胞浸潤) 1920(体重↓)				
人健康影響判定根拠	がん原性試験において発がん性が認められた知見があり、継続的に摂取される場合人の健康を損なうおそれの疑いがあるため、第二種監視化学物質相当				
藻類生長阻害	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法：OECD-TG201 培養方式：振とう培養 試験濃度：設定濃度 0.004、0.008、0.02、0.04、0.08、0.17、0.36、0.76★、1.6★mg/L 実測濃度 0.003、0.008、0.020、0.038、0.074、0.163、0.348、0.61★、1.4★mg/L (0h) -※、-※、-※、0.005、0.013、0.027、0.073、0.12★、0.35★mg/L (72h) ※ 検出限界 (0.002 mg/L) 未満、★追加試験 助剤：HCO-50 100 mg/L 0-72hErC50 (実測値に基づく) =0.50 mg/L 0-72hNOECr (実測値に基づく) =0.066 mg/L				
ミジンコ急性遊泳阻害	生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：OECD-TG202 試験方式：止水式 試験濃度：設定濃度 0.04、0.08、0.14、0.26、0.46、0.83、1.5 mg/L 実測濃度 0.03、0.07、0.12、0.23、0.43、0.71、1.4 mg/L (幾何平均値) 助剤：HCO-50 100 mg/L 48hEiC50 (実測値に基づく) =0.71 mg/L				
ミジンコ繁殖阻害	生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：OECD-TG211 試験方式：半止水式、週に3回換水 試験濃度：設定濃度 0.04、0.08、0.14、0.25、0.44、0.80 mg/L 実測濃度 <0.02、0.04、0.08、0.18、0.35、0.68 mg/L (時間加重平均値) 助剤：HCO-50 100 mg/L 21dNOEC (実測値に基づく) =0.08 mg/L				
魚類急性毒性	生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 物質濃度：設定濃度 0.38、0.69、1.2、2.2、4.0 mg/L 実測濃度 0.14、0.26、0.62、1.3、2.8 mg/L (幾何平均値) 助剤：HCO-50 100 mg/L 96hLC50 (実測値に基づく) >2.8 mg/L また、最高濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 2.8 mg/L 群：異常遊泳 (72hr 2/10) 遊泳不能 (96hr 1/8)				
生態影響判定根拠	藻類生長阻害試験において 0-72hNOECr=0.066mg/L、ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEiC50=0.71mg/L 及びミジンコ繁殖阻害試験において 21dNOEC=0.08mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。				
環境調査	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値

※1	水質	S52	3/12	0.011~0.021	—~0.1 (μ g/L)
		S53	0/117	—	0.01~10 (μ g/L)
	底質	S52	2/12	0.0021~0.037	0.0009~0.02 (μ g/g-dry)
		S53	3/111	0.046~0.058	0.002~1.2 (μ g/g-dry)
魚類	S53	0/90	—	0.002~1 (μ g/g-wet)	
備考	※1 S53、S54 版「化学物質と環境」(環境省環境保健部安全課)				

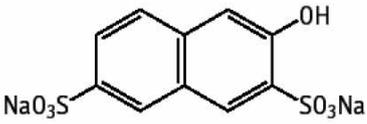
既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-779	CAS No.	824-78-2
審議結果	総合判定 人健康影響 第二種監視化学物質相当 生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名 称：p-ニトロフェノールナトリウム <div style="text-align: center;">  </div>		
分解性	難分解性(水中で速やかに解離し、p-ニトロフェノール(3-777、難分解、低濃縮)及びナトリウムイオンを生成)		
蓄積性	—		
人健康影響判定根拠	変化物1について第二種監視化学物質相当であることから、総合判定として第二種監視化学物質相当。		
生態影響判定根拠	変化物1について第三種監視化学物質相当であることから、総合判定として第三種監視化学物質相当。		
備考	変化物1あり(p-ニトロフェノール)。ナトリウムイオンについては、第一種特定化学物質及び監視化学物質に該当しないと公表済み。		

他の試験	<p><p-ニトロフェノール> [CICAD(2000)より引用] 変異原性試験 Ames 試験 ・ WP2 -S9 mix 群で陰性(0.001~2.5mg/plate) ・ TA1538 -S9mix 群で陽性(0.001~2.5mg/plate) ・ TA1538 -S9 mix 群で陰性(0.01~5mg/plate) ・ TA1538 ±S9mix 群で陰性(0.01~5mg/plate) ・ TA1538,TA1978 -S9 mix 群で陰性(0.125~2 mg/plate) ・ TA98,TA100 ±S9mix 群で陰性(0.0007~5mg/plate) ・ TA1535, TA1537 ±S9mix 群で陰性(0.001~5mg/plate)</p> <p>染色体異常試験 ・ CHO cell -S9mix 群で陰性(0.1~0.5mg/mL) +S9 mix 群で陽性(1.25~2 mg/mL)</p> <p>マウスリンフォーマ TK 試験 ・ ±S9mix 群で陰性 (-S9 :0.7~1.5 mg/mL, +S9mix :0.0001~0.03 mg/mL) ・ +S9 mix 群で陰性(0.06~0.78 mg/mL)</p> <p>反復投与試験 SD ラット(70, 210, 630 mg/kg/day(経口投与)) 28 日間. 70mg/kg/day で肝臓の退色・脂肪変性 SD ラット (25, 70, 140mg/kg/day(経口投与)) 90 日間 NO(A)EL 25mg/kg/day 「メトヘモグロビンの形成に基づく NO(A)EL は低いかもしれない」 (70mg/kg/day で、肺・肝・腎・副腎皮質・脳下垂体の鬱血・死亡。生存例では変化なし) SD ラット (1,5,30mg/m³(粉末吸入投与)) 6 時間/日*5 日間/週*4 週間 NO(A)EL (局所的影響について) 5mg/m³ 「メトヘモグロビンの形成に基づく NO(A)EL はより低いかもしれない」 (30mg/m³ で白内障) Swiss-Webster マウス (22,44,88,175,350mg/k BW (経皮投与)) 3 日間/週*13 週間 ≥175mg/kg/day で皮膚刺激・炎症・壊死・死亡率の上昇</p> <p>発がん性試験 Swiss-Webster マウス (40,80,160mg/kg BW(経皮投与)) 3 日/週*78 週間 がん原性なし 「160mg/kg/day で被験物質に関連した腫瘍性又は非腫瘍性作用なし」</p> <p>生殖発生毒性試験 SD ラット (50,100,250mg/kg/day(経皮投与)) F₀ : 5 日間/週*交配前 140 日間、F₁ : 5 日/週*交配前 168 日間 250mg/kg/day で皮膚刺激以外の影響は認められなかった CD-1 マウス (400mg/kg /day (経口投与)) 妊娠 7-14 日 (1 投与群・児の完全な検査が行われていない) 400mg/kg/day で妊娠マウスの生存率の減少、母動物の体重増加の抑制、児の肉眼的異常はなし SD ラット (100, 333, 667,1000mg/kg(経口投与)) 妊娠 11 日 : (混合物の暴露・児の完全な検査が行われていない) ≥333mg/kg/day で母体あたりの児数の減少傾向</p>					
人健康影響判定根拠	Ames 試験は陰性、染色体異常試験は陽性、NOEL160mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当。					
生態影響判定根拠	第三種監視化学物質として、審議済み。 生態毒性がみとめられていることから化学物質排出把握管理促進法の第一種指定化学物質に指定されており、動植物の生息又は生育に支障を及ぼすおそれがあることから、第三種監視化学物質相当。					
環境調査	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:15%;">媒体</td> <td style="width:15%;">実施年度</td> <td style="width:15%;">検体</td> <td style="width:15%;">検出範囲</td> <td style="width:15%;">検出限界</td> </tr> </table>	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出限界
媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出限界		

※1	水質	S53 S54 H6	1/30 0/111 0/36	0.13(μ g/L) — —	0.08~10(μ g/L) 0.04~5(μ g/L) 0.6(μ g/L)
	底質	S53 S54 H6	0/30 0/111 0/36	— — —	0.02~0.5(μ g/g-dry) 0.002~0.8(μ g/g-dry) 0.052(μ g/g-dry)
	魚類	S54 H6	0/93 0/36	— —	0.01~0.2(μ g/g-wet) 0.005(μ g/g-wet)
	大気	H6	27/27	1~71(ng/m^3)	1 (ng/m^3)
備考	参考 : pKa=7.08(20°C) ※1 S54、S55、H7 版「化学物質と環境」(環境省環境保健部安全課)				

既存化学物質審査シート

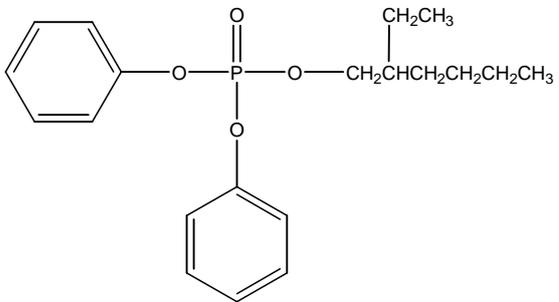
官報公示 整理番号	4-498	CAS No.	135-51-3
審議結果	人健康影響 収集された情報からは第二種監視化学物質相当に該当するとは判断されない。		
名称 構造式等	名称：2-ナフトール-3,6-ジスルホン酸ナトリウム 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	陰性 純度 96.4%. 溶媒 (蒸留水-溶解). TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. -S9mix 群 : 5000 μg/plate +S9mix 群 : 5000 μg/plate		
染色体 異常	陰性 純度 96.4%. 溶媒 (生理食塩液-溶解). CHL/IU. 5.0mg/mL まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施. -S9mix 群 : 5.0mg/mL +S9mix 群 : 5.0mg/mL 24 時間処理群 : 5.0mg/mL 48 時間処理群 : 5.0mg/mL		
28 日間 反復投与	投与方法	強制経口投与 溶媒 : 注射用水	
	純度	96.4%	
	用量	3 投与群 (100,300,1000mg/kg/day)	
	死亡	-	
	NOEL	300mg/kg/day	
	推定根拠	散瞳 : 1000♂♀	
	他の毒性	-	
回復性	問題なし		
人健康影 響判定根 拠	Ames 試験及び染色体異常試験は陰性、NOEL300mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当ではない。		
備考			

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	2-2022	CAS No.	78-51-3
審議結果	人健康影響 収集された情報からは第二種監視化学物質相当に該当するとは判断されない。		
名称 構造式等	<p>名称：リン酸トリス（2-ブトキシエチル）エステル</p> $ \begin{array}{c} \text{OCH}_2\text{CH}_2\text{O}(\text{CH}_2)_3\text{CH}_3 \\ \\ \text{O}=\text{P} \text{---} \text{OCH}_2\text{CH}_2\text{O}(\text{CH}_2)_3\text{CH}_3 \\ \\ \text{OCH}_2\text{CH}_2\text{O}(\text{CH}_2)_3\text{CH}_3 \end{array} $		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	<p>陰性 純度 98.2%. 溶媒（DMSO-溶解）. TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. 5000 μg/plate まで実施した用量設定試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施。 （本試験 I, II）</p> <p>−S9mix 群：250 μg/plate (TA100,TA1537：最高用量で菌の生育阻害) 500 μg/plate (TA98,TA1535：250 μg/plate 以上で菌の生育阻害) 5000 μg/plate (WP2uvrA：2500 μg/plate 以上で被験物質の析出) +S9mix 群：500 μg/plate (TA100,TA1535,TA1537：最高用量で菌の生育阻害) 2500 μg/plate (TA98：1250 μg/plate 以上で菌の生育阻害) WP2uvrA：最高用量で菌の生育阻害)</p>		
染色体 異常	<p>陰性 純度 98.2%. 溶媒（DMSO-溶解）. CHL/IU. 4.0mg/mL(10mM)まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施。 −S9mix 群：0.18mg/mL（細胞毒性のため 0.09mg/mL まで観察） +S9mix 群：0.8 mg/mL（細胞毒性のため 0.2mg/mL まで観察） 24 時間処理群：0.18 mg/mL（細胞毒性のため 0.09mg/mL まで観察） 48 時間処理群：0.18 mg/mL（細胞毒性のため 0.045mg/mL まで観察）</p>		
28 日間 反復投与	投与方法	強制経口投与 溶媒：コーン油	
	純度	98.2%	
	用量	3 投与群(100, 300, 1000 mg/kg/day)	
	死亡	-	
	NOEL	100 mg/kg/day	
	推定根拠	絶対重量(肝↑：300以上♀・1000♂) 相対重量(肝↑：300 以上♀・1000♂) 病理組織学的所見(肝臓-小葉辺縁部肝細胞微細空胞化：300 以上♀♂)	
	他の毒性	一般状態(軟便, 頻呼吸・うずくまり, 脱力・腹臥位：1000♂) 血液学的検査 (WBC↓・Plt↑：1000♀) 血液生化学的検査(Ca↑：1000♂、 GPT↑・γ-GT↑：1000♀、ChE↓：1000♀♂) 相対重量(副腎↑：1000♀) 病理組織学的所見(肝臓-小葉中心性肝細胞肥大：1000♀)	
回復性	問題なし		

他の毒性	<p>[EHC より引用]</p> <p>経口毒性：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SD ラット (500, 2000, 7500, 15000 mg/kg diet(混餌投与))、4 週間 摂餌量↓：7500 以上♀ ・ Wistar ラット (0.3, 3, 30 g/kg diet (混餌投与))、14 週間 NOEL：0.3g/kg diet (20 mg/kg BW) 体重↓：30♂♀、ChE↓：3 以上♂♀、γ-GTP↑：30♂♀、肝細胞肥大：30♂ ・ SD ラット(0.25, 0.5 mL/kg BW(強制経口投与))、18 週間(5 日/週) NOEL：<0.25 mL/kg BW 死亡：0.5♀、活動性↓・呼吸困難・運動失調：0.25 以上♂♀、 痙攣・立毛・流涙：0.5♂♀、γ-GTP↑：0.5♀、Red Cell-ChE↓：0.25 以上♂、 肝↑：0.25 以上♂♀、腎↑：0.5♂♀、限局性心筋炎：0.25 以上♂ ・ SD ラット(300, 3000, 10000 mg/kg diet (混餌投与))、18 週間 NOEL：300 mg/kg diet/day (15 mg/kg BW/day) Plt↑：10000、γ-GTP↑・ChE↓：3000 以上、肝↑：10000、 門脈周囲肝細胞肥大・空胞変性：3000 以上♂ <p>催奇形性：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ CD ラット (250, 500, 1500 mg/kg BW (強制経口投与)、妊娠 6-15 日投与 NOEL：1500 mg/kg/day 胎児に影響なし
人健康影響判定根拠	Ames 試験及び染色体異常試験は陰性であり、NOEL100mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当でない。
備考	

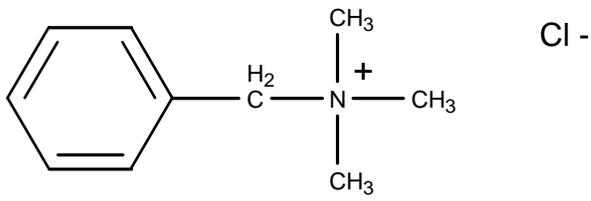
既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-2520	CAS No.	1241-94-7
審議結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：リン酸（2-エチルヘキシル）ジフェニルエステル 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	陰性 純度 91.4%. 溶媒 (DMSO-溶解). *純度換算あり TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. (本試験 I, II) -S9mix 群：5000 μg/plate* (625 μg/plate 以上で被験物質の析出) +S9mix 群：5000 μg/plate* (625 μg/plate 以上で被験物質の析出)		
染色体 異常	陰性 純度 91.4%. 溶媒 (アセトン-溶解). CHL/IU. *純度換算あり 0.5mg/mL まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施。 -S9mix 群：0.08mg/mL*(50%以上細胞分裂指数抑制濃度) +S9mix 群：0.2mg/mL* (細胞毒性のため 0.1mg/mL まで観察) 24 時間処理群：0.05mg/mL*(50%以上細胞分裂指数抑制濃度) 48 時間処理群：0.025mg/mL*(50%以上細胞分裂指数抑制濃度)		
28 日間 反復投与	投与方法	強制経口投与 溶媒：0.1%Tween80 水溶液	
	純度	91.4%	
	用量	4 投与群 (4, 20, 100, 500mg/kg)	
	死亡	-	
	NOEL	20 mg/kg/day	
	推定根拠	一般状態(流涎：100 以上♀♂) 血液生化学的検査(血球 ChE ↓：100 以上♀・500♂、 TP ↑：100 以上♂・500♀、Alb ↑：100 以上♂) 絶対重量(副腎 ↑：100 以上♀・500♂) 相対重量(肝 ↑：100 以上♂・500♀、副腎 ↑：100 以上♀・500♂) 病理組織学的所見(肝-小葉中心性肝細胞肥大：100 以上♀♂、 甲状腺-濾胞上皮細胞肥大：100 以上♀♂)	
他の毒性	血液学的検査(APTT ↑：500♂) 血液生化学的検査(血漿 ChE ↓：500♀♂、Cho ↑：500♀) 絶対重量(肝 ↑：500♀♂) 病理組織学的所見(腎-近位尿細管上皮好酸性小体・硝子滴：500♂、 副腎-束状帯脂肪滴増加：500♀♂) 回復期 絶対重量(甲状腺 ↑：500♂) 相対重量(甲状腺 ↑：500♂)		

	回復性	血球・血漿 ChE↓、肝↑、肝－小葉中心性肝細胞肥大、 腎－近位尿細管上皮好酸性小体・硝子滴、甲状腺－濾胞上皮細胞肥大
人健康影 響判定根 拠	Ames 試験及び染色体異常試験は陰性であるが、NOEL20mg/kg/day であることから第二 種監視化学物質相当	
備考		

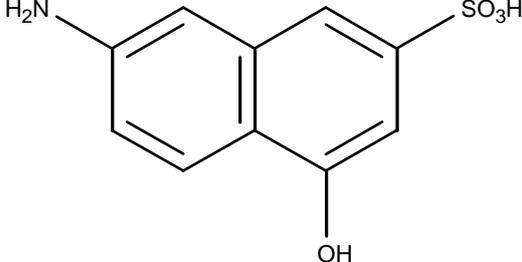
他の試験	
人健康影響判定根拠	Ames 試験及び染色体異常試験は陰性、NOEL100mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当ではない
備考	

既存化学物質審査シート（1月13日審議予定）

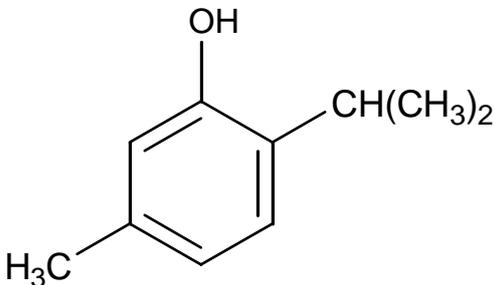
官報公示 整理番号	3-2694	CAS No.	56-93-9
審議結果	人健康影響 保留		
名称 構造式等	<p>名 称：ベンジルトリメチルアンモニウムクロリド</p> 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	<p>陰性</p> <p>純度 99.0%以上. 溶媒（注射用蒸留水－溶解）. TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. （本試験 I, II）</p> <p>－S9mix 群：5000 μg/plate (TA100, TA1535：最高用量で菌の生育阻害) ＋S9mix 群：5000 μg/plate</p>		
染色体 異常	<p>陽性</p> <p>＋S9mix 群で構造異常の誘発</p> <p>純度 99.0%以上. 溶媒（生理食塩水－溶解）. CHL/IU. 1.9mg/mL(10mM)まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に以下の濃度まで実施. （本試験）</p> <p>－S9mix 群：1.9 mg/mL ＋S9mix 群：1.9 mg/mL 24 時間処理群：1.9 mg/mL 48 時間処理群：1.9 mg/mL （確認試験 1 回目） ＋S9mix 群：1.9 mg/mL （確認試験 2 回目） ＋S9mix 群：1.9 mg/mL</p> <p>*D20 値は算出できない。</p>		
28 日間 反復投与	投与方法	強制経口投与 溶媒：超純水	
	純度	98%	
	用量	3 投与群（30, 60, 120 mg/kg/day）	
	死亡	14 日間投与量設定試験 180：♂3/5・♀4/5 本試験 120：♀1/10	
	NOEL	30 mg/kg/day	
	推定根拠	一般状態(流涎：60 以上♂・120♀)	
	他の毒性	体重↓・摂餌量↓：120♂、 一般状態（流涎・被毛の汚れ：120♀♂、立毛：120♀）	
	回復性	問題なし	
人健康影 響判定根 拠	<p>「Ames 試験は陰性、染色体異常試験は軽微な陽性であるが、NOEL30mg/kg/day であり、神経行動毒性がみとめられることから第二種監視化学物質相当」という事務局案であったが、現時点での毒性情報だけでは、神経行動毒性がみとめられているとは判断できないとされたため、予備試験等を含めて追加の毒性情報の収集を行い、再度審議することとされた。</p>		

備考	
----	--

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	4-514	CAS No.	87-02-5
審議結果	人健康影響 収集された情報からは第二種監視化学物質相当に該当するとは判断されな い。		
名称 構造式等	名 称：7-アミノ-4-ヒドロキシ-2-ナフタレンスルホン酸 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	陽性 比活性値=498 rev./mg (+S9mix 群：TA98) +S9mix 群の TA98, TA100, TA1535 及び TA1537 で対照群の 2 倍を超える変異コロニ 一の誘発。 純度 91.8%. 溶媒 (DMSO-溶解). *純度換算あり TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. (本試験 I, II) -S9mix 群：5000 μg/plate* +S9mix 群：5000 μg/plate*		
染色体 異常	陰性 純度 91.8%. 溶媒 (DMSO-溶解). CHL/IU. *純度換算あり 1.5mg/mL(調整可能な最高用量)まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の 濃度まで実施。 -S9mix 群：1.5 mg/mL* +S9mix 群：1.5 mg/mL* 24 時間処理群：1.5 mg/mL* 48 時間処理群：1.5 mg/mL*		
28 日間 反復投与	投与方法	強制経口投与 溶媒：5%アラビアゴム	
	純度	91.8%	
	用量	3 投与群 (250, 500, 1000 mg/kg/day)	
	死亡	-	
	NOEL	1000 mg/kg/day	
	推定根拠	全群で特に毒性学的影響は認められていない	
	他の毒性	-	
	回復性	問題なし	
人健康影 響判定根 拠	Ames 試験は陽性であるが強いものではなく、染色体異常試験は陰性、 NOEL1000mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当でない。		
備考			

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-521	CAS No.	89-83-8
審議結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当		
名称 構造式等	<p>名 称：チモール</p> 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	<p>陰性 純度 98%以上. 溶媒 (DMSO-溶解). プレート法. TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. 5000 μg/plate まで実施した用量設定試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施. (本試験 I) - S9mix 群 : 500 μg/plate (TA1537 : 250 μg/plate 以上で菌の生育阻害 TA98, TA100, TA1535, WP2uvrA : 最高用量で菌の生育阻害) + S9mix 群 : 1000 μg/plate (TA1535, TA1537 : 500 μg/plate 以上で菌の生育阻害) 2000 μg/plate (TA98, TA100, WP2uvrA : 1000 μg/plate 以上で菌の生育阻害) (本試験 II) - S9mix 群 : 500 μg/plate (最高用量で菌の生育阻害) + S9mix 群 : 1000 μg/plate (TA1535, TA1537 : 500 μg/plate 以上で菌の生育阻害) 2000 μg/plate (TA98, TA100, WP2uvrA : 1000 μg/plate 以上で菌の生育阻害)</p>		
染色体 異常	<p>陽性 D20 値 = 0.38mg/mL (+S9mix 群 : 構造異常) +S9mix 群で構造異常の誘発. 純度 ≥ 98%. 溶媒 (DMSO-溶解). CHL/IU. 1.5mg/mL(10mM)まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施. - S9mix 群 : 0.08 mg/ mL + S9mix 群 : 0.08 mg/mL 24 時間処理群 : 0.08 mg/mL (細胞毒性のため 0.040mg/mL まで観察) 48 時間処理群 : 0.08 mg/mL (細胞毒性のため 0.040mg/mL まで観察)</p>		
反復経口投 与毒性・生 殖発生毒性 併合試験 (ReproTox)	投与方法	強制経口投与 溶媒 : 3%アラビアゴム水溶液	
	純度	99.6 %	
	用量	3 投与群 (8, 40, 200 mg/kg/day)	
	死亡	本試験 200 : ♂1/10, 200 : ♀1/10 [投与済]	
NOEL	反復投与 : 8 mg/kg/day 生殖発生毒性 : 40 mg/kg/day		

	推定根拠	反復投与 病理組織学的所見(前胃－水腫：40 以上♂、 前胃－上皮過形成：40 以上♂♀、 前胃－炎症細胞浸潤：40 以上♂・200♀) 生殖発生毒性 新生児低体重・生後体重増加抑制：200
	他の毒性	反復投与 一般状態(自発運動減少・歩行失調：200♀)
	回復性	実施せず
他の毒性	小核試験	陰性 純度≥98%．BDF1(C57BL/6×DBA/2)系マウス．1 群雌雄各 5 匹． 3 投与群 (312.5, 625, 1250mg/kg)．骨髓細胞
人健康影 響判定根 拠	Ames 試験は陰性、染色体異常試験は軽微な陽性であるが、NOEL8mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当。	
備考		

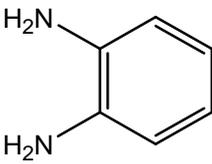
魚類初期生活段階毒性試験	生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG210 試験方式：流水式 物質濃度：設定濃度 0.031、0.062、0.13、0.25、0.50 mg/L 実測濃度 0.030、0.060、0.12、0.24、0.50 mg/L（時間加重平均値） 助剤：DMSO 0.1 mL/L（最高濃度） NOEC（設定値に基づく）=0.031 mg/L【推定根拠：症状】				
生態影響判定根拠	藻類生長阻害試験において 0-72hErC50=0.0034mg/L、0-72hNOECr=0.0010mg/L、ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEiC50=0.27mg/L、ミジンコ繁殖阻害試験において 21dNOEC=0.34 μg/L、魚類急性毒性試験において 96hLC50=0.67mg/L 及び魚類初期生活段階毒性試験において NOEC=0.031mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。				
環境調査 ※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出限界
	水質	H7	0/33	—	0.05(μg/l)
	底質	H7	19/24	0.005~0.0079	0.0046(μg/g-dry)
	魚類	H7	0/33	—	0.003(μg/g-wet)
備考	※1 H8版「化学物質と環境」（環境省環境保健部安全課）				

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-449	CAS No.	100-14-1
審議結果	生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：1-クロロメチル-4-ニトロベンゼン 		
分解性	難分解性 分解度試験（化審法テストガイドライン：28日間） BODによる平均分解度：0%(0,0,0) HPLCによる平均分解度：52%(52,51,51) ・被験物質は試験液中で加水分解し、4-ニトロベンジルアルコール（3-3797，良分解性）を49～51%生成した。		
蓄積性	高濃縮性でない 分配係数試験（化審法テストガイドライン：フラスコ振とう法） log Pow平均：2.41 log Pow最大最小差：0.01 解離性：無		
藻類生長 阻害	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法：OECD-TG201 培養方式：振とう培養 試験濃度：設定濃度 0.0095、0.017、0.031、0.056、0.10 mg/L 実測濃度 0.0064、0.012、0.022、0.050、0.093 mg/L（幾何平均値） 助剤：なし 0-72hErC50（実測値に基づく）=0.038 mg/L 0-72hNOECr（実測値に基づく）=0.012 mg/L		
ミジンコ 急性遊泳 阻害	生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：OECD-TG202 試験方式：止水式 試験濃度：設定濃度 0.60、1.0、1.7、2.9、5.0 mg/L 実測濃度 0.57、0.98、1.7、2.8、4.8 mg/L（時間加重平均値） 助剤：なし 48hEiC50（設定値に基づく）=1.5 mg/L		
ミジンコ 繁殖阻害	生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：OECD-TG211 試験方式：半止水式、24時間毎に換水 試験濃度：設定濃度 0.062、0.12、0.25、0.50、1.0 mg/L 実測濃度 0.059、0.12、0.24、0.49、0.95 mg/L（時間加重平均値） 助剤：なし 21dNOEC（実測値に基づく）=0.24 mg/L		
魚類急性 毒性	生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：半止水式、48時間後に換水 物質濃度：設定濃度 0.59、0.89、1.3、2.0、3.0 mg/L 実測濃度 0.49、0.77、1.2、1.8、2.9 mg/L（時間加重平均値） 助剤：なし 96hLC50（実測値に基づく）=0.61 mg/L また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 0.49 mg/L 群：異常行動（72hr、96hr）		

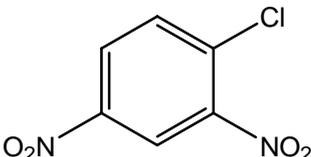
生態影響 判定根拠	藻類生長阻害試験において 0-72hErC50=0.038mg/L、0-72hNOECr=0.012mg/L 及び魚類 急性毒性試験において 96hLC50=0.61mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。
備考	

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-185	CAS No.	95-54-5
審議結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当 (平成 16 年 7 月 2 日告示済み) 生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：o-フェニレンジアミン 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
人健康影 響判定根 拠	第二種監視化学物質として、平成 16 年 7 月 2 日告示済み。 変異原性及び吸入慢性毒性(作業環境許容濃度から得られた情報)がみとめられていること から化学物質排出把握管理促進法の第一種指定化学物質に指定されており、人の健康に係 る被害を生ずるおそれがあることから、第二種監視化学物質相当。		
藻類生長 阻害	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法： OECD-TG201 培養方式： 振とう培養 試験濃度： 設定濃度 0.32、0.56、1.0、1.8、3.2 mg/L 実測濃度 0.24、0.37、0.51、0.77、1.1 mg/L (幾何平均値) 助剤： なし 0-72hErC50 (実測値に基づく) =0.82 mg/L 0-72hNOECr (実測値に基づく) =0.37 mg/L		
ミジンコ 急性遊泳 阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG202 試験方式： 止水式 試験濃度： 設定濃度 0.46、1.0、2.2、4.6、10 mg/L 実測濃度 0.42、0.93、2.1、4.4、9.6 mg/L (幾何平均値) 助剤： なし 48hEiC50 (設定値に基づく) =1.4 mg/L		
ミジンコ 繁殖阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG211 試験方式： 半止水式、48 時間毎に換水 試験濃度： 設定濃度 0.10、0.22、0.46、1.0、2.2 mg/L 実測濃度 0.083、0.21、0.46、1.0、2.1 mg/L (時間加重平均値) 助剤： なし 21dNOEC (実測値に基づく) =0.083 mg/L		

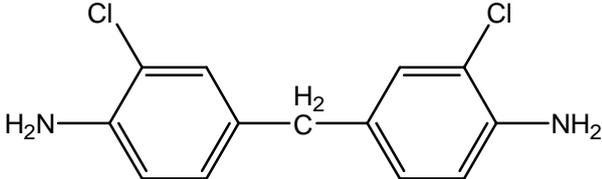
魚類急性毒性	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：半止水式、48 時間後に換水 物質濃度：設定濃度 1.0、1.8、3.2、5.6、10 mg/L 実測濃度 0.78、1.5、2.7、4.6、8.3 mg/L（幾何平均値） 助剤：なし 96hLC50（実測値に基づく）=4.6 mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 2.7 mg/L 群：異常遊泳（48hr 1/10、72hr 1/10、96hr 1/10） 4.6 mg/L 群：異常遊泳（48hr 10/10、72hr 5/5、96hr 3/5） 遊泳不能（96hr 2/5）</p>				
生態影響判定根拠	<p>藻類生長阻害試験において 0-72hErC50=0.82mg/L、ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEiC50=1.4mg/L でありかつ当該物質中に芳香族アミンを有すること、ミジンコ繁殖阻害試験において 21dNOEC=0.083mg/L 及び魚類急性毒性試験において 96hLC50=4.6mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。</p>				
環境調査※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出限界
	水質	S53	0/24	—	5~20 (μg/L)
	底質	S53	0/24	—	1.0~2.2 (μg/g-dry)
	魚類	—	—	—	
備考	<p>※1 S54 版「化学物質と環境」（環境省環境保健部安全課）</p>				

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-454	CAS No.	97-00-7
審議結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当（指定化学物質として、平成12年9月22日告示済み） 生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：1-クロロ-2,4-ジニトロベンゼン 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
人健康影 響判定根 拠	指定化学物質として、平成12年9月22日告示済み。 変異原性がみとめられていることから化学物質排出把握管理促進法の第一種指定化学物質に指定されており、人の健康に係る被害を生ずるおそれがあることから、指定化学物質相当。		
藻類生長 阻害	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法： OECD-TG201 培養方式： 振とう培養 試験濃度： 設定濃度 0.020、0.038、0.074、0.14、0.27、0.52、1.0 mg/L 実測濃度 0.020、0.038、0.073、0.14、0.27、0.53、1.0 mg/L (0h) -※、-※、-※、-※、0.036、0.50、0.98 mg/L (72h) ※ 検出限界 (0.005 mg/L) 未満 助剤： なし ①ガラスへの吸着、分解等の場合。 0-72hErC50（実測濃度の幾何平均値に基づく）=0.18 mg/L 0-72hNOECr（実測濃度の幾何平均値に基づく）=0.0060 mg/L ②藻体への吸着の場合。 0-72hErC（初期実測値に基づく）=0.35 mg/L 0-72hNOECr（初期実測値に基づく）=0.014 mg/L		
ミジンコ 急性遊泳 阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG202 試験方式： 止水式 試験濃度： 設定濃度 0.10、0.18、0.32、0.56、1.0 mg/L 実測濃度 0.099、0.18、0.33、0.55、0.97 mg/L（幾何平均値） 助剤： なし 48hEiC50（設定値に基づく）=0.66 mg/L		
ミジンコ 繁殖阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG211 試験方式： 半止水式、48時間毎に換水 試験濃度： 設定濃度 0.0070、0.022、0.070、0.22、0.70 mg/L 実測濃度 0.0043、0.017、0.056、0.18、0.60 mg/L（時間加重平均値） 助剤： なし 21dNOEC（実測値に基づく）=0.18 mg/L		

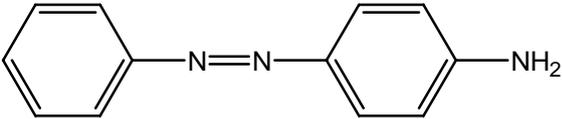
魚類急性毒性	生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 物質濃度：設定濃度 0.10、0.18、0.32、0.56、1.0 mg/L 実測濃度 0.092、0.17、0.29、0.52、0.99 mg/L（幾何平均値） 助剤：なし 96hLC50（設定値に基づく）=0.16 mg/L また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 0.180mg/L 群：異常遊泳（48hr 1/10、96hr 1/3）				
魚類初期生活段階毒性	生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG210 試験方式：流水式 物質濃度：設定濃度 0.0090、0.022、0.052、0.13、0.30 mg/L 実測濃度 0.0087、0.022、0.052、0.12、0.28 mg/L（算術平均値） 助剤：なし NOEC（設定値に基づく）=0.052 mg/L 【推定根拠 体重、体長】				
他の毒性情報	化学物質の環境リスク評価 第2巻（環境省環境保健部環境リスク評価室）より引用 ミジンコに対する毒性として <i>Daphnia magna</i> 48hEC50=0.49 mg/L				
生態影響判定根拠	藻類生長阻害試験において 0-72hErC50=0.18mg/L、0-72hNOECr=0.0060mg/L、ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEiC50=0.66mg/L、魚類急性毒性試験において 96hLC50=0.16mg/L 及び魚類初期生活段階毒性試験において NOEC=0.052mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。				
環境調査 ※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出限界
	水質	S53	0/24	—	0.2~0.5 (μg/L)
	底質	S53	0/15	—	0.007~0.0167 (μg/g-dry)
魚類					
備考	※ 1 S54 版「化学物質と環境」（環境省環境保健部安全課）				

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	4-95 4-96 4-275	CAS No.	101-14-4
審議結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当（指定化学物質として昭和 62 年 10 月 17 日告示済み） 生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：4, 4'-ジアミノ-3, 3'-ジクロロジフェニルメタン 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
人健康影響判定根拠	指定化学物質として、昭和 62 年 10 月 17 日告示済み。 変異原性及びがん原性がみとめられることから、指定化学物質相当。		
藻類生長 阻害	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法： OECD-TG201 培養方式： 振とう培養 試験濃度： 設定濃度 0.90、1.2、1.6、2.2、3.0 mg/L 実測濃度 0.24、0.32、0.45、0.54、0.85 mg/L（幾何平均値） 助剤： DMF 100 μL/L 0-72hErC50（実測値に基づく） >0.85 mg/L 0-72hNOECr（実測値に基づく） =0.54 mg/L		
ミジンコ 急性遊泳 阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG202 試験方式： 止水式 試験濃度： 設定濃度 0.21、0.36、0.60、1.0、1.8、3.0 mg/L 実測濃度 0.15、0.26、0.42、0.69、1.2、2.1 mg/L（幾何平均値） 助剤： DMF 100 μL/L 48hEiC50（実測値に基づく） =0.92 mg/L		
ミジンコ 繁殖阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG211 試験方式： 半止水式、24 時間毎に換水 試験濃度： 設定濃度 0.0030、0.0095、0.030、0.095、0.30 mg/L 実測濃度 0.0031、0.0096、0.031、0.099、0.33 mg/L（時間加重平均値） 助剤： DMF 100 μL/L 21dNOEC（設定値に基づく） =0.0095 mg/L		

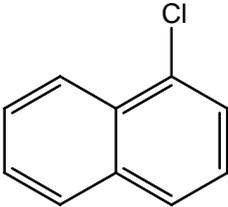
魚類急性 毒性	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 物質濃度：設定濃度 0.30、0.53、0.95、1.7、3.0 mg/L 実測濃度 0.26、0.47、0.85、1.4、2.6 mg/L（幾何平均値） 助剤：DMF 100 μ L/L 96hLC50（設定値に基づく）=0.61 mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 0.53 mg/L 群：異常遊泳（48hr 1/10、72hr 1/8） 0.95 mg/L 群：異常遊泳（24hr 2/10、48hr 2/9、72hr 4/4、96hr 2/2）</p>				
生態影響 判定根拠	<p>ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEiC50=0.92mg/L、ミジンコ繁殖阻害試験において 21dNOEC=0.0095mg/L 及び魚類急性毒性試験において 96hLC50=0.61mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。</p>				
環境調査 ※ 1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出限界
	水質	S54	0/39	—	0.02~200(μ g/L)
		S60	0/30	—	5(μ g/L)
	底質	S54	0/39	—	0.001~3.0(μ g/g-dry)
		S60	0/24	—	0.4(μ g/g-dry)
	魚類	—	—	—	—
備考	<p>※ 1 S55、S61 版「化学物質と環境」（環境省環境保健部安全課）</p>				

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-363	CAS No.	60-09-3
審議結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当 (平成 16 年 7 月 2 日告示済み) 生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：p - (フェニルアゾ) アニリン 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
人健康影 響判定根 拠	第二種監視化学物質として、平成 16 年 7 月 2 日告示済み。 発がん性がみとめられていることから化学物質排出把握管理促進法の第二種指定化学物 質に指定されており、人の健康に係る被害を生ずるおそれがあることから、第二種監視化 学物質相当。		
藻類生長 阻害	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法： OECD-TG201 培養方式： 振とう培養 試験濃度： 設定濃度 0.039、0.16、0.62、2.5、10 mg/L 実測濃度 0.035、0.14、0.55、2.3、9.6 mg/L (幾何平均値) 助剤： なし 0-72hErC50 (実測値に基づく) =2.9 mg/L 0-72hNOECr (実測値に基づく) =0.14 mg/L		
ミジンコ 急性遊泳 阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG202 試験方式： 止水式 試験濃度： 設定濃度 0.30、0.51、0.86、1.5、2.5 mg/L 実測濃度 0.28、0.47、0.80、1.4、2.3 mg/L (時間加重平均値) 助剤： なし 48hEiC50 (実測値に基づく) =0.46 mg/L		
ミジンコ 繁殖阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG211 試験方式： 半止水式、24 時間毎に換水 試験濃度： 設定濃度 0.0010、0.0020、0.0040、0.0080、0.016 mg/L 実測濃度 0.00092、0.0018、0.0036、0.0071、0.014 mg/L (時間加重平均値) 助剤： なし 21dNOEC (実測値に基づく) =0.0071 mg/L		

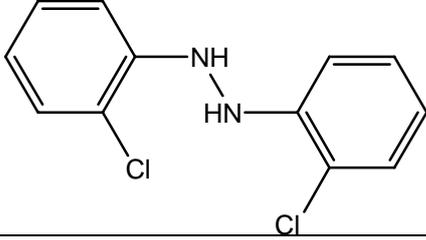
<p>魚類急性 毒性</p>	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：流水式 物質濃度：設定濃度 0.12、0.18、0.27、0.40、0.60 mg/L 実測濃度 0.12、0.18、0.27、0.40、0.61 mg/L (算術平均) 助剤：なし 96hLC50 (実測値に基づく) =0.35 mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。</p> <p>0.27mg/L 群：軽度平衡喪失 (96hr) 出血 (72hr、96hr) 表層遊泳 (96hr) 過活動 (96hr)</p> <p>0.40mg/L 群：軽度平衡喪失 (72hr、96hr) 出血 (72hr、96hr) 表層遊泳 (72hr、96hr) 活動低下 (72hr、96hr) 過活動 (72hr)</p>
<p>生態影響 判定根拠</p>	<p>ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEiC50=0.46mg/L、ミジンコ繁殖阻害試験において 21dNOEC=0.0071mg/L 及び魚類急性毒性試験において 96hLC50=0.35mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。</p>
<p>備考</p>	

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	4-316	CAS No.	90-13-1
審議結果	生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：1-クロロナフタレン 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
藻類生長 阻害	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法： OECD-TG201 培養方式： 振とう培養 試験濃度： 設定濃度 0.030、0.095、0.30、0.95、3.0 mg/L 実測濃度 0.024、0.070、0.22、0.70、2.2 mg/L (幾何平均値) 助剤： なし 0-72hErC50 (実測値に基づく) >2.2 mg/L 0-72hNOECr (実測値に基づく) =0.070 mg/L		
ミジンコ 急性遊泳 阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG202 試験方式： 半止水式、24時間毎に換水 試験濃度： 設定濃度 0.24、0.41、0.69、1.2、2.0 mg/L 実測濃度 0.18、0.33、0.56、0.92、1.6mg/L (時間加重平均値) 助剤： なし 48hEiC50 (実測値に基づく) =0.73 mg/L		
ミジンコ 繁殖阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG211 試験方式： 半止水式、24時間毎に換水 試験濃度： 設定濃度 0.025、0.050、0.10、0.20、0.40 mg/L 実測濃度 0.025、0.047、0.094、0.19、0.37mg/L (時間加重平均値) 助剤： なし 21dNOEC (実測値に基づく) =0.094 mg/L		

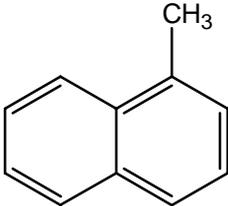
魚類急性毒性	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 物質濃度：設定濃度 0.20、0.59、1.8、2.3、3.0 mg/L 実測濃度 0.16、0.48、1.5、1.9、2.6 mg/L（時間加重平均値） 助剤：なし 96hLC50（実測値に基づく）=1.7 mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 0.48 mg/L 群：表層遊泳（24hr、72hr、96hr） 1.5 mg/L 群：軽度平衡喪失（24hr、48hr） 完全平衡喪失（24hr、48hr、72hr、96hr） 表層遊泳（24hr、48hr、72hr、96hr） 活動低下（24hr、48hr、72hr、96hr） 嗜眠状態（24hr、72hr） 1.9 mg/L 群：軽度平衡喪失（24hr、48hr） 完全平衡喪失（24hr、48hr、72hr、96hr） 表層遊泳（24hr、48hr、72hr、96hr） 活動低下（24hr、48hr、72hr、96hr）</p>				
生態影響判定根拠	藻類生長阻害試験において 0-72hNOECr=0.070mg/L、ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEiC50=0.73mg/L、ミジンコ繁殖阻害試験において 21dNOEC=0.094mg/L 及び魚類急性毒性試験において 96hLC50=1.7mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。				
環境調査 ※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出限界
	水質	S52	0/6	—	0.03~3(μ g/L)
		S61	0/33	—	0.05(μ g/L)
	底質	S52	0/6	—	0.012~0.3(μ g/g-dry)
		S61	0/30	—	0.003(μ g/g-dry)
	魚類	—	—	—	—
備考	※1 S53、S62 版「化学物質と環境」（環境省環境保健部安全課）				

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-2756	CAS No.	782-74-1
審議結果	生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：2, 2'-ジクロロヒドラゾベンゼン 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
藻類生長 阻害	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法： OECD-TG201 培養方式： 振とう培養 試験濃度： 設定濃度 0.03、0.06、0.10、0.18、0.33、0.60、1.1★、2.0★、3.5★mg/L 実測濃度 0.01、0.02、0.04、0.08、0.18、0.39、0.91★、1.4★、3.0★mg/L (0h) -※、-※、-※、0.003、0.09、0.13、0.53★、0.91★、2.0★mg/L (72h) ※ 検出限界 (0.01 mg/L) 未満、★追加試験 助剤： HCO-50 100 mg/L 0-72hErC50 (実測値に基づく) >2.5 mg/L 0-72hNOECr (実測値に基づく) =0.13 mg/L		
ミジンコ 急性遊泳 阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG202 試験方式： 半止水式、24 時間後に換水 試験濃度： 設定濃度 0.11、0.19、0.34、0.62、1.1、2.0 mg/L 実測濃度 0.05、0.07、0.15、0.35、0.71、1.4 mg/L (幾何平均値) 助剤： HCO-50 20 mg/L (最高濃度) 48hEiC50 (実測値に基づく) =0.23 mg/L		
ミジンコ 繁殖阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG211 試験方式： 半止水式、週に 3 回換水 試験濃度： 設定濃度 0.021、0.038、0.069、0.12、0.22、0.40 mg/L 実測濃度 <0.01、<0.02、<0.03、<0.05、0.09、0.23 mg/L (時間加重平均値) 助剤： HCO-50 20 mg/L 21dNOEC (実測値に基づく) =0.09 mg/L		

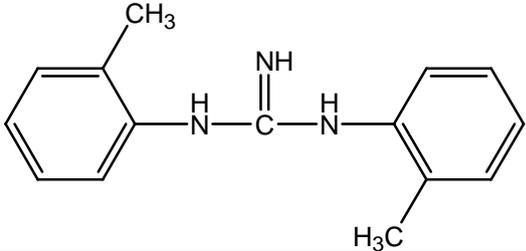
魚類急性 毒性	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 物質濃度：設定濃度 0.12★、0.21★、0.38、0.69、1.2、2.2、4.0 mg/L 実測濃度 —★★、0.05★、0.05、0.15、0.37、1.0、2.2 mg/L（幾何平均値） ※ 検出限界（0.03 mg/L）未満、★追加試験 助剤：HCO-50 40 mg/L（最高濃度） 96hLC50（実測値に基づく）=0.10 mg/L ※追加試験 また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 0.05 mg/L 群：異常遊泳（24hr 1/10、48hr 2/8、72hr 2/8、96hr 3/6） 平衡喪失又は遊泳不能（24hr 1/10、48hr 1/8、72hr 1/8） 異常呼吸（96hr 1/6） 0.15 mg/L 群：異常遊泳（24hr 5/9、48hr 2/7、72hr 3/5、96hr 3/4） 平衡喪失又は遊泳不能（24hr 3/9、48hr 3/7、72hr 2/5、96hr 1/4）</p>
魚類初期 生活段階 毒性	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG210 試験方式：流水式 物質濃度：設定濃度 0.0020、0.0053、0.014、0.038、0.10 mg/L 実測濃度 0.0016、0.0042、0.012、0.036、0.095 mg/L（算術平均値） 助剤：DMF 約 0.1 mL/L 及び HCO-60 0.5 mg/L NOEC（実測値に基づく）=0.0042 mg/L 【推定根拠 体長】</p>
生態影響 判定根拠	<p>ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEiC50=0.23mg/L、ミジンコ繁殖阻害試験において 21dNOEC=0.09mg/L、魚類急性毒性試験において 96hLC50=0.10mg/L 及び魚類初期生活段階毒性試験において NOEC=0.0042mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。</p>
備考	

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	4-80	CAS No.	90-12-0
審議結果	生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：1-メチルナフタレン 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
藻類生長 阻害	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法： OECD-TG201 培養方式： 振とう培養（密閉系） 試験濃度： 設定濃度 0.30、0.54、0.97、1.7、3.1、5.6、10 mg/L 実測濃度 0.26、0.45、0.82、1.4、2.7、4.8、8.4 mg/L（幾何平均値） 助剤： 2-メトキシエタノール及び HCO-40（1:1） 40 mg/L 0-72hErC50（実測値に基づく）=2.8 mg/L 0-72hNOECr（実測値に基づく）=0.45 mg/L		
ミジンコ 急性遊泳 阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG202 試験方式： 止水式 試験濃度： 設定濃度 0.50、0.90、1.6、2.8、5.0 mg/L 実測濃度 0.45、0.89、1.5、2.6、4.7 mg/L（幾何平均値） 助剤： 2-メトキシエタノール及び HCO-40（1:1） 40 mg/L 48hEiC50（設定値に基づく）=2.2 mg/L		
ミジンコ 繁殖阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG211 試験方式： 半止水式、48時間毎に換水 試験濃度： 設定濃度 0.025、0.080、0.25、0.80、2.5 mg/L 実測濃度 0.022、0.070、0.22、0.72、2.2 mg/L（時間加重平均値） 助剤： 2-メトキシエタノール及び HCO-40（1:1） 30 mg/L 21dNOEC（実測値に基づく）=0.22 mg/L		
魚類急性 毒性	生物種： ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法： OECD-TG203 試験方式： 半止水式、24時間毎に換水 物質濃度： 設定濃度 0.50、1.0、2.0、4.0、8.0 mg/L 実測濃度 0.45、0.90、1.8、3.6、7.2 mg/L（幾何平均値） 助剤： メチルセロソルブ及び HCO-40 96 mg/L（最大濃度） 96hLC50（設定値に基づく）=5.7 mg/L また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 1.0 mg/L 群： 異常遊泳（72hr 9/10、96hr 10/10） 2.0 mg/L 群： 異常遊泳（24hr 9/10、48hr 9/10、72hr 9/10） 遊泳不能（24hr 1/10、48hr 1/10、72hr 1/10、96hr 10/10） 4.0 mg/L 群： 異常遊泳（24hr 2/10、48hr 2/10） 遊泳不能（24hr 8/10、48hr 8/10、72hr 10/10、96hr 10/10）		

生態影響 判定根拠	魚類急性毒性試験において 96hLC50=5.7mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。				
環境調査 ※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	S51	0/28	—	0.2~1(μ g/L)
	底質	S51	0/28	—	0.02~0.1(μ g/g-dry)
	魚類	—	—	—	—
大気	S59 H10	65/72 29/30 10/10	1.9~280 5.1~150	0.4~5 (ng/m ³) 2 (ng/m ³)	
備考	※1 S52、S60、H11 版「化学物質と環境」(環境省環境保健部安全課)				

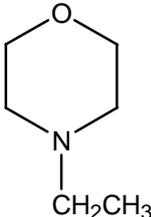
既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-2190 9-1870	CAS No.	97-39-2
審議結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当【審議済み】 生態影響 収集された情報からは第三種監視化学物質相当に該当するとは判断されない。		
名称 構造式等	名称：1, 3-ジ-ortho-トリルゲアニジン 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない(今回審議物質、事務局判定案)		
Ames 【審議済み】	陰性 純度 99.6%. 溶媒 (DMSO-溶解). TA100, TA1535, TA98, TA1537, WP2 uvrA (本試験 1, 2 とも) -S9mix 群 : 5000 μg/plate (TA1535, TA98, WP2 uvrA : 2500 μg/plate 以上の用量で菌の生育阻害) 2500 μg/plate (TA100 : 最高用量で菌の生育阻害 TA1537 : 1250 μg/plate 以上の用量で菌の生育阻害) +S9mix 群 : 5000 μg/plate (全ての菌株において 2500 μg/plate 以上の用量で菌の生育阻害)		
染色体 異常 【審議済み】	陽性 D20 値=2.73mg/mL (+S9mix 群 : 構造異常) +S9mix 群で構造異常の誘発. 純度 99.6%. 溶媒 (DMSO-溶解). CHL/IU. 2.4mg/ mL(10mM)まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に以下の濃度まで実施. -S9mix 群 : 0.6mg/ mL (細胞毒性のため 0.45mg/ mL まで観察) +S9mix 群 : 0.6mg/ mL (50%以上細胞増殖抑制濃度) (確認試験) +S9mix 群 : 0.8 mg/ mL (細胞毒性のため 0.6mg/ mL まで観察)		
28 日間 反復投与 【審議済み】	投与方法	強制経口投与 溶媒 : 0.1%Tween80 添加 0.5%CMC-Na 水溶液	
	純度	99.6%	
	用量	4 投与群 (7.5,15,30,60mg/kg/day)	
	死亡	予備試験 (単回) 120 : ♂4/5・♀5/5、60 : ♂1/5・♀3/5 本試験 60 : ♂1/12・♀7/12	
	NOEL	7.5mg/kg/day	
推定根拠	尿検査(尿量↑ : 15 以上♀、浸透圧↓・尿比重↓ : 15 以上♀・30 以上♂)		

	他の毒性	体重↓・摂餌量↓：60♂♀ 一般状態（散瞳・流涎：30以上♂♀、 振戦・自発運動低下・緩徐呼吸・体温低下：60♂♀） 機能検査（散瞳：30以上♂♀、 振戦・緩徐呼吸・流涎・瞳孔反射低下・自発運動低下：60♂♀） 血液生化学検査（Cho↑・PL↑：30以上♀、TP↓・GPT↑・K↑：60♂♀、 Alb↓・ALP↑・BUN↑：60♂、TG↑・Na↓：60♀） 相対重量（肝↑：30以上♀） 組織学的所見（肝一小葉中心性肝細胞肥大：60♀）
	回復性	問題なし
簡易生殖 【審議済 み】	投与方法	強制経口投与 溶媒：0.1%Tween80 添加 0.5%CMC-Na 水溶液
	純度	99.6%
	用量	3投与群（8,20,50mg/kg/day）
	死亡	予備試験（単回） 120：♂4/5・♀5/5、60：♂1/5・♀3/5 28日間試験 60：♂1/12・♀7/12 本試験 50：♂2/12・♀3/12
	NOEL	反復投与：8mg/kg/day 生殖発生毒性：20mg/kg/day
	推定根拠	反復投与 摂餌量↓：20以上♀・50♂ 一般状態（流涎：20以上♂♀、 散瞳・自発運動低下・緩徐呼吸・腹臥位・振戦：20以上♀・50♂） 生殖発生毒性 出産児数↓・生後4日児数↓・出生率↓・生後0日児体重↓・児外表異常↑・ 生後4日児生存率↓：50
	他の毒性	反復投与 体重↓：50♂♀
	回復性	検査なし
人健康影 響判定根 拠	Ames 試験陰性であり、染色体異常試験は陽性であるも軽微であるが、NOEL7.5mg/kg/day （簡易生殖毒性試験における反復投与毒性については 8mg/kg/day）であることから第二 種監視化学物質相当。【審議済み】	
藻類生長 阻害	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法：OECD-TG201 培養方式：振とう培養 試験濃度：設定濃度 0.50、0.82、1.4、2.2、3.7、6.1、10 mg/L 実測濃度 0.52、0.84、1.5、2.3、3.8、6.3、10 mg/L（幾何平均値） 助剤：DMF 40 μL/L 0-72hErC50（設定値に基づく）=8.6 mg/L 0-72hNOECr（設定値に基づく）=2.2 mg/L	
ミジンコ 急性遊泳 阻害	生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：OECD-TG202 試験方式：止水式 試験濃度：設定濃度 2.5、4.5、8.0、14、25 mg/L 実測濃度 2.6、4.7、8.4、14、25 mg/L（幾何平均値） 助剤：DMF 100 μL/L 48hEiC50（実測値に基づく）=7.2 mg/L	

ミジンコ 繁殖阻害	<p>生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：OECD-TG211 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 試験濃度：設定濃度 0.080、0.25、0.80、2.5、8.0 mg/L 実測濃度 0.89、0.28、0.88、2.8、9.0 mg/L（時間加重平均値） 助剤：DMF 100 μL/L 21dNOEC（実測値に基づく）=2.8 mg/L</p>
魚類急性 毒性	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 物質濃度：設定濃度 5.0、7.5、11、17、25 mg/L 実測濃度 5.0、7.6、11、17、25 mg/L（幾何平均値） 助剤：DMF 100 μL/L 96hLC50（実測値に基づく）=19 mg/L また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 11mg/L 群：異常遊泳（平衡感覚の消失）（24hr 1/10、48hr 1/9、72hr 2/9） 17mg/L 群：異常遊泳（平衡感覚の消失）（24hr 4/9、48hr 3/9、72hr 1/9、96hr 4/9） 遊泳不能（24hr 3/9、48hr 4/9、72hr 8/9、96hr 5/9） 鰓部出血（72hr 3/9、96hr 3/9）</p>
生態影響 判定根拠	<p>3種の急性毒性試験から得られる最も低い毒性値が 48hEC50=7.2mg/L（ミジンコ急性遊泳阻害試験）であり、かつミジンコ繁殖阻害試験において 21dNOEC=2.8mg/L であることから、第三種監視化学物質相当でない。</p>
備考	

既存化学物質審査シート

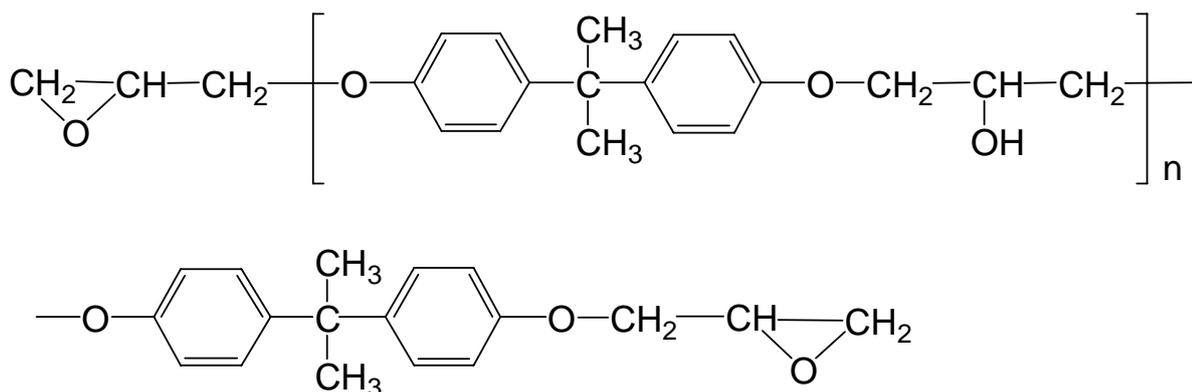
官報公示 整理番号	5-860	CAS No.	100-74-3
審議結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当【審議済み】 生態影響 収集された情報からは第三種監視化学物質相当に該当するとは判断されない。		
名称 構造式等	名称：4-エチルモルホリン 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames 【審議済み】	陰性 純度 99.84%. 溶媒 (蒸留水-溶解). TA100, TA1535, TA98, TA1537, WP2 uvrA. 実験 1、2 ともに -S9mix 群 : 5000 μg/plate +S9mix 群 : 5000 μg/plate		
染色体異常 【審議済み】	陰性 純度 99.84%. 溶媒 (生理食塩水-溶解). CHL/IU. 1.2mg/mL(10mM)まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に以下の濃度まで実施. -S9mix 群 : 1.2mg/mL +S9mix 群 : 1.2mg/mL 24 時間処理群 : 1.2mg/mL (細胞毒性のため 0.6mg/mL まで観察)		
28 日間 反復投与 【審議済み】	投与方法	強制経口投与 溶媒：注射用水	
	純度	>99 %	
	用量	3 投与群 (50, 200, 800 mg/kg/day)	
	死亡	急性毒性(2000♂3/3・♀2/3、1500♂1/3、1000♀1/3) 予備試験(1000♂1/3・♀1/3)	
	NOEL	50 mg/kg/ day	
	推定根拠	一般状態(断続的な咀嚼様動作/舐める動作：200 以上♂♀)	
	他の毒性	体重↓(800♂♀) 摂餌量↓(800♂♀) 一般状態(動作振戦・活動性低下・うずくまり・閉眼・流涎：800♂♀) F O B [詳細な観察](咀嚼様動作/舐める動作・動作振戦・接触による過敏反応 ↑：800♂♀) F O B(自発運動量 (立ち上がり回数) ↓：800♀) 尿検査(尿蛋白↓：800♂、尿中ケトン体↑・尿中ウベリノゲン↑・尿量↑・尿比重↓： 800♀) 血液学的検査(PLT↑：800♀、PT↓・APTT↓：800♂) 血液生化学的検査(Pi↑・Cl↓：800♂♀、Alb↓・BUN↑・Ca↑：800♂、Glu↑・ TG↑：800♀) 絶対重量(肝↑：800♀) 相対重量(肝↑・腎↑：800♂♀、副腎↑：800♂) 組織学的所見(肝一小葉中心性肝細胞肥大：800♂♀、 腎一遠位尿管上皮空胞化：800♂♀)	
回復性	一般状態(接触に対する反応 (やや過敏に反応))		
簡易生殖	投与方法	強制経口投与 溶媒：注射用水	

【審議済み】	純度	>99 %			
	用量	3 投与群 (50, 150, 500 mg/kg/day)			
	死亡	500(♀ 1/13)			
	NOEL	反復投与： 50 mg/kg/ day 生殖発生毒性： 500 mg/kg/ day			
	推定根拠	反復投与： 体重↓(150 以上♀・500♂) 摂餌量↓(150 以上♀・500♂) 一般状態(流涎：150 以上♂♀) 生殖発生毒性： 全群で特に毒性学的影響は認められていない。			
	他の毒性	-			
回復性	検査なし				
人健康影響判定根拠	Ames 試験及び染色体異常試験は陰性であるが、NOEL50mg/kg/day (簡易生殖毒性試験における反復投与毒性についても 50mg/kg/day) であり神経毒性がみとめられることから第二種監視化学物質相当。【審議済み】				
藻類生長阻害	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法： OECD-TG201 培養方式： 振とう培養 試験濃度： 設定濃度 10、15、23、35、53、80 mg/L 実測濃度 10、15、24、36、53、82 mg/L (幾何平均値) 助剤： なし 0-72hErC50 (設定値に基づく)： 53 mg/L < 0-72hErC50 < 80 mg/L 0-72hNOECr (設定値に基づく) = 23 mg/L ①53、80mg/L において細胞凝集が認められた。				
ミジンコ急性遊泳阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG202 試験方式： 半止水式、24 時間後に換水 試験濃度： 設定濃度 100 mg/L (限度試験) 実測濃度 92 mg/L (幾何平均値) 助剤： なし 48hEiC50 (実測値に基づく) > 92 mg/L				
ミジンコ繁殖阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG211 試験方式： 半止水式、24 時間毎に換水 試験濃度： 設定濃度 100 mg/L (限度試験) 実測濃度 99 mg/L (時間加重平均値) 助剤： なし 21dNOEC (実測値に基づく) = 99 mg/L (試験上限濃度では影響が認められなかった)				
魚類急性毒性	生物種： ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法： OECD-TG203 試験方式： 半止水式、24 時間毎に換水 物質濃度： 設定濃度 100 mg/L (限度試験) 実測濃度 100 mg/L (幾何平均値) 助剤： なし 96hLC50 (実測値に基づく) > 100 mg/L				
生態影響判定根拠	3 種の急性毒性試験から得られる最も低い毒性値が 53mg/L < 0-72hEC50 < 80mg/L (藻類生長阻害試験) であり、かつ藻類生長阻害試験において 0-72hNOEC=23mg/L であることから、第三種監視化学物質相当でない。				
環境調査	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値

※1	水質	S54	0/33	—	1~30(μ g/L)
	底質	S54	0/33	—	0.01~0.7(μ g/g-dry)
	魚類	—	—	—	—
備考	※1 S55 版「化学物質と環境」(環境省環境保健部安全課)				

【化学物質排出把握管理促進法上の第一種指定化学物質における、難分解性及び高濃縮性でないとは判定済み物質の化審法上の人健康影響の審議について】

物質名称:4,4'-イソプロピリデンジフェノールと1-クロロ-2,3-エポキシプロパンの重縮合物(液状のものに限る。)



官報公示整理番号:7-1279 cas:25068-38-6

分解性:難分解性

蓄積性:高濃縮性でない

人健康影響判定根拠:

変異原性がみとめられていることから化学物質排出把握管理促進法の第一種指定化学物質に指定されており、人の健康に係る被害を生ずるおそれがある

審議結果

第二種監視化学物質相当